

研究会レポート

リージョナルステート研究会 (社)日本技術士会北海道支部/
北海道技術士センター

一層の飛躍のチャンス

リージョナルステート研究会の設立主旨は、北海道の自律のため、北海道の活性化のため、私達技術士が何をする事が出来るか、提案し、身の周りの出来る事から実行してみよう、と言うことです。具体的な活動は、分科会を中心にして、現場に入って具体的に実行をすると共に、全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大・レベルアップのために全体行事の開催、相互分科会の案内と事業連携、全体の情報交換会を開催しています。

先日の臨時総会において、カタカナの研究会の名前についていかがなものか、と疑問を呈されましたが、要は名前より活動内容が問題なのです。リージョナルステートとは地方国家（政府）の意味で、地方が自律していかなければならない、という意味でつけたもので、そのためには元気な技術士が必要です。元気な技術士とは、技術や社会の問題・課題を解決に向けてコーディネートできることで、機会ある毎に周りに（社会に）働きかける説得力を持っていることです。

当研究会は準備期間を含めて7年間になろうとしています。この7年間で各技術士が置かれていた立場から、企業、専門、技術の縦割りの殻を破ってきたと言えるのではないのでしょうか。自分達で考え、企画し、人を集めて実行することで、社会貢献に結びついていると言うことです。その実績が着々と積み重なっていると感じます。

北海道には、夕張市の財政破綻、人口減少、公共事業費の減少等待った無しの問題が山積しています。こういう時期にこそ技術士は何か役に立てないかと考えます。これからも、より新しい発想で活気ある研究会にしていきたいものです。

(文責：研究会会長 市村 一志)

自然科学教育分科会

2006 年活動のハイライト！

今年度の研究会活動も大詰めを迎えております。

忙しかった教育分科会の活動を振り返り、ハイライトで紹介します。

1. ますます充実、寿都町サポート

寿都町教育委員会の絶大なるご支援の末、今年は3件の行事が実現しました。



春のイモ植え



夏のキャンプ



秋のイモ試食

2. お年寄りもお相手に、清田区シニアスクール

分科会初の試みとして、お年寄りを対象とした活動（シニアスクール）に延べ5講義参加しました。



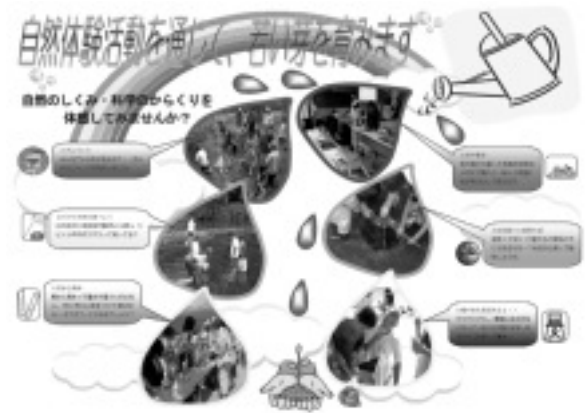
シニアがシニアに講義中？

3. ついに完成、パンフレット！

前回は紹介しておりましたが、念願のパンフレットが完成し、2,000部を印刷しました。さあ、これから張り切って宣伝です。



ワーキンググループによるパンフレット検討会



パンフレットの中身です

今後も、バラエティに富んだ会員の感覚を大事にして分科会活動をより充実させたいと願っております。

（文責：分科会幹事 赤松 周平）

観光分科会（平成18年度活動報告）

観光分科会及び循環技術システム研究分科会の共催行事として下記の見学会を開催し、計9名が参加しました。

- ① 定住・移住促進施策 高齢者配慮 人口減少、少子高齢化への対策が求められる今日、伊達市は長期滞在型観光振興施策、定住・移住促進施策、高齢者配慮等を先進的・総合的に取り組んでいる。
- ② 環境・リサイクル対策 環境配慮への対策が求められる今日、伊達市は全国でも早期にごみの有料化に踏み切るとともに生ゴミなど堆肥化、美化サポートなどに取り組んでいる。



伊達市担当者からのヒアリング調査

参加者：市村会長、成田幹事長、観光分科会(宮武、有山、日浅) 高橋、循環技術システム研究分科会(永瀬、田川、山田) 計9名

開催日時：H18年11月2日(木) 9:00~18:00
スケジュール：

13:00~14:00 伊達市役所にてヒアリング調査

○住んでみたいまちづくり課

伊達ウェルシーランド構想にみる伊達市の長期滞在型観光振興策、定住・移住促進施策

○環境衛生課

ごみの有料化、堆肥化、美化サポートその他環境美化・リサイクル関連施策

14:00~16:00 現地見学会

優良田園住宅建設事業見学(公募事業による移住者等の田園住宅地開発)、堆肥センター見学等(生ごみ、水産・畜産残渣などの堆肥化)

循環技術システム研究分科会

1. 講演会

○10月：しばらく見学会が続きましたので、一息入れて2日に講演会を企画しました。テーマは「公共工事における総合評価落札方式の現状について」で、講師はメンバーの阪技術士にお願いしました。総合評価落札方式の概要、導入事例、問題点と日常的・実的な経験を交えて、お話していただきました。

2. 伊達市見学会

○11月：この月は2回の催しが行われ、第一弾は7月に続いて観光分科会とのコラボレート行事の「伊達市見学会」を2日に実施しています。こちらの方は観光分科会にて詳細が報告されると思いますので、内容の紹介は譲ることにします。

3. スーパーエコビル見学会

○11月の第二弾は大成建設株式会社札幌支店新社屋、通称「スーパーエコビル」の見学会を13日に実施しました。大成建設の皆さんは、午後6時からという遅い時間の見学会を快く引き受けて下さいました。前評判の通り外断熱構造、制振システム、自然採光、自然通風、床冷房他最新の技術がふんだんに使用されると共に、コスト面に配慮された大変バランスの取れた設計がなされ、一同感嘆して見学したものです。



優良田園住宅制度による移住団地用地



堆肥センター見学

(文責：分科会座長 宮武 清志)



自然採光用ミラー (T社パンフレットより)

4. くじら亭にて懇親会

○12月18日は懇親会でしたが、少し趣向をこらし

て、北海道唯一のくじら料理専門店の女将が東京農大の客員教授をしている関係で、現在の商業捕鯨の状況等、鯨に関する講義を30分程聞いて、その後懇親会を行った次第です。

(食の循環ということになるでしょうか…)

今年も様々な企画を行ってきましたが、さて、来年はどうなるでしょうか。

(文責：分科会事務局 外 朝彦)

地域主権分科会の活動報告

1. はじめに

地域主権分科会は、平成17年6月に第1回の定例分科会を開催して以来、1年半の間に合計10回の会合を重ねてまいりました。この間、地域主権とはどうあるべきか、人口減少下における社会資本整備や地域の経営のあり方をどうすべきなのか、技術士としてどのような提案を発信すべきかなど、多くの議論を行ってきました。

ようやくここにきて、北海道を地域的に制約を設けることなく、道内での生活・生産に関わる諸課題を踏まえた社会資本のあり方及び整備について検討するAグループと、地域的な特色を鮮明にすることに努め、より地域特性を具体的に反映させた社会資本のあり方及び整備について研究するBグループに分けて勉強することになりました。

勉強会を進めるにあたっては、北海道が推進している地域主権とはどういうことなのかを知ることによって、二つのグループの地域主権に対する共通の認識としたいと考え、6月と7月に講師を御招きして勉強会を行いました。

2. 研究会の活動報告

今回は、7月28日(第8回分科会)に行った勉強会について報告します。第8回分科会は、特別講演会としてテーマを「地域の実態を踏まえたこれからの北海道のあり方、地域のあり方について考える～自治のかたちをさぐる～」と題し、講師として北海道日高支庁参事の本本晃さんをお願いしました。

本本講師からは、現在日高地方で主宰しておられ

る「困っているんじゃない会」の活動状況のお話がありました。例えば、

(1) 地域の状況に関しては、

- ① 金を儲けることは考えるが、金を使うことを考えていない
- ② 「レンガを積む」仕事を単なる仕事ととらえるか「まちづくり」と考えるのか
- ③ マイナスをプラスに転換する——見方によっては欠点も魅力となる得る

(2) 困っていることに気付くに関しては

- ① 困っていることに気付いていない、気付いた人が動くべき
- ② うまくやるにはツボを探す必要がある

(3) 仲間を見つけるに関しては

- ① 仲間とは同じものを共有できることが大切
- ② 仲間のいる所、守るべきものがあるところが「まち」である

(4) できる人ができる時にできることから始めるに関しては

- ① できないことは諦め、できる努力をしたい
- ② リーダーがいらないからできないわけではない

などの示唆に富むお話がありました。また、講演の後の質疑応答では、分科会メンバーから幾つかの質問が出されましたが、それに対して本本講師から懇切丁寧な回答をしていただきました。例えば、「北海道のまちのありかたとしてタイディタウンの話をしてほしい。」との質問に対する回答では、「タイディタウンとはアイルランドの美しい街のコンペで45年程度続いている都市づくり運動で、これにより観光客が増え、美しい国になり、産業も興った。タイディタウンコンペにはスポンサーが付いており、このスポンサーの意向と評価で賞がとれる仕組みもできている。」というものでした。

また、「地域主権を考えてみたが、地方から望むべき姿を発信しないと成立しないが、地方にそのエネ

ルギーがあるのだろうか。」という質問に対しては「地域の問題点とは、困っていることに誰も気付いていないことが問題である。誰かがしてくれる、何とかなるということではなく、あなたがしなければ前に進まないということを、地域コンサルとして、住民の人たちに教えていかなければならないのではないか。テクニカルなこと（資金や制度）を教えるのではなく、地域のネックは何かを教えることが大切なことだ。街の人たちは道庁が金をだしてくれないとか外から来た人が何もしてくれないなどの不平不満を言うが、自分たちで自主的に何かをすること、行動を起こすということが、とても大切なことを、理解して貰うことが最も大切だと思う。」というアドバイスをいただきました。

このほかにも活発な質疑応答がなされて、2時間の講演予定時間はあっという間に過ぎ去りました。

3. 今後の活動予定

今回の講演会のまとめとして、須藤座長から、「まず、お礼を申し上げます。実践の伴ったお話をいただきまして、大変ありがとうございました。前回の出光参事のお話同様、地方分権の制度から地域主権へと現状の制度を乗り越えていかなければならないと感じました。地域の住民にとっては日常生活圏の充実は分かりやすく、安心、安全、教育等の身近な

問題から。解決していかなければならないことを痛感しました。

本本講師が主張されたコミュニティ・人のつながりが大切だという考え方に賛同します。さらに住んでもらうためにはコミュニティが必要ではないかという考え方も同感です。今後は私たち技術士だけではできないこともありますので、仲間を集めて情報の共有化を行っていく必要があると感じました。」というお礼の言葉がありました。

今後の私たち分科会の予定ですが、メンバー25人を本人の希望によって、2つのグループに分けました。一つは「人口減少下での社会資本整備のあり方を研究するAグループ」、「ケーススタディ都市を選定して、実際に社会資本整備の計画案を策定するBグループ」です。現在、この二つのグループの幹事、副幹事を中心にグループ討議を行っており、近いうちに両グループから検討成果を発表する機会を持ちたいと考えています。

北海道技術士センターも日本技術士会北海道支部と統合されました。私たち地域主権分科会はこれからも道内は勿論、道外の技術士や国民に向けて情報を発信し、社会貢献を行っていきたいと考えています。本会会員の皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

（文責：分科会幹事 相内 啓二、中田 光治）

